

平成27年度

施策評価マネジメントシート(平成26年度の実績評価)

記入年月日

平成 27 年 6 月 22 日

施策No.	政策名	魅力と活力のある産業社会づくり	主管課	商工観光課	主管課長名	中島 章夫
503	施策名	観光の振興	関係課	農林課、都市整備課、企画課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		桜川市に訪れる観光客	①1都、6県の人口	千人	見込値			42,003	42,005	42,006	42,008	42,010	41,940
実績値	42,326				42,420	42,337	42,619	42,688	42,792				
見込値													
実績値													
目的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	四季を通じて観光客に訪れてもらう	①観光客入り込み客数	人	目標値			620,000	625,000	400,000	405,000	410,000	415,000	
実績値				380,500	614,800	385,500	333,600	367,100	339,600				
②上野沼やすらぎの里キャンプ場利用者数		人	目標値			6,000	10,000	11,500	12,000	12,000	12,000		
			実績値	12,607	11,842	6,716	11,573	11,605	14,761				
③真壁町並み(ひなまつり含む)客数		人	目標値			80,000	90,000	100,000	110,000	115,000	120,000		
			実績値	101,567	111,387	100,121	111,097	81,505	101,513				
④雨引観音客数		人	目標値			420,000	430,000	200,000	205,000	210,000	215,000		
			実績値	206,394	415,276	139,833	145,159	181,169	164,604				
成果指標設定の考え方		○四季を通じて観光客に訪れてもらうために、①観光客入り込み客数と、代表的な集客地②「やすらぎの里利用者数」③「真壁街並み(ひなまつり含む)客数」④「雨引観音客数」を指標とした。											
成果指標の把握方法及び算定式等		○対象の「1都、6県の人口」は、関東地区の人口。人口問題研究所推計から年別の人口を推計。 ・①観光客入り込み客数は、「茨城の観光レクリエーション現況」から。 ・②やすらぎの里利用者数は、やすらぎの里の利用者実績数を記入。 ・③真壁街並み(ひなまつり含む)客数は、観光客動態調査(行祭事・イベント調査の真壁のひなまつり) + 街並み案内ボランティア(年間案内人数 + ひなまつり期間中案内人数合計)数を記入した。 ・④雨引観音客数は、観光客動態調査から。											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> ○桜川市の歴史的文化遺産や自然環境に誇りと関心を持ち、自ら学び、地域の観光資源の活用について考える。 ○来訪者に対する出会いの機会やおもてなしの心を育む。 ○地域のイベントなどに積極的に参加する。 ○来訪者に誇れる清潔で美しいまちづくりに努める。 ○観光を地域産業振興として育成していくことに対して、関心と理解を高めるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民や観光客の意向調査に努め、つくばエクスプレスや北関東自動車道を活用した観光振興施策を検討する。 ○市民に対し、桜川市の歴史的文化遺産や自然環境に誇りを持ってもらう機会を用意し、観光資源を育成していくことに対して、市民の合意形成を図る。 ○筑波山周辺地域の行政機関との連携を強化し、地域情報のPR充実を図る。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<ul style="list-style-type: none"> ○北関東自動車道を利用し、東北方面、1都6県から市内へ訪れる観光客増が見込める。 ○1都6県の人口は微増傾向にある。 ○団塊の世代が引退し、観光需要が増える。 ○健康づくりへのニーズが高まり、登山、ハイキング、サイクリング客が増加する傾向にある。 ○23年4月にバス路線が完全に廃止になった。 ○震災から4年が経過し真壁地区の歴史的建造物の修復がだいぶ進んできた。 ○茨城空港が開港し、路線も増えられ観光客の増加が見込まれる。 ○流鏝馬競技会(4月上旬)が行われるようになった。 ○山桜や桜川のサクラが雑誌や新聞、テレビで取り上げられるようになり、観光客もだいぶ増えてきている。 ○雨引観音の本坊(事務所、休憩室、宝物展示、展望室)が整備された。雨引観音では今後概ね10年をかけて、裏山をサクラ公園として整備していく予定。 ○筑波山地域ジオパーク推進協議会が設立され、地域振興策が増えた。 ○観光協会が平成25年5月31日に一本化され、ホームページも立ち上がり、観光・物産両面で市内外へ情報を発信してける体制が整った。 ○まち・ひと・しごと事業を活用したシャトルバス運行により、誘客数の増加が見込める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、中位より下に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。 ○観光協会を社団法人化して体制を整え、観光を市の産業として位置づけるようにしたいという声がある。 ○議会から観光大使の設置や桜川市のB級グルメ考案について進めてはどうかという意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①観光PRの強化・充実	市内を訪れる観光客	桜川市を知ってもらう	観光客入り込み客数	実績値 人	614,800	385,500	333,600	367,100	339,600		
②観光資源の充実・開発	イベント、観光資源	イベント、観光資源を充実し、多くの方に訪れてもらう	桜川市で行われているイベントへの参加者数、来場者数	実績値 人	153,000	142,500	162,000	135,500	155,500		
③近隣自治体との連携	近隣自治体	近隣自治体と連携がとれ、観光資源のネットワーク化が図られている	連携している取組み数	実績値 事業	3	3	4	5	5		

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	25年度実績	26年度実績	27年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	33	32	32
②施策事業費(一般財源以外)	千円	14,271	12,474	11,856
③施策事業費(一般財源)	千円	39,626	44,082	44,698
④施策事業費の計(②+③)	千円	53,897	56,556	56,554
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	20,346	18,935	18,714
⑥計(④+⑤)	千円	74,243	75,491	75,268

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	観光資源PR事業	後期基本計画主要事業
事務事業	観光協会運営支援事業	H26貢献度上位、H27優先度上位
事務事業	観光パンフレット作成配布事業	H26貢献度上位、H27優先度上位
事務事業	上野沼やすらぎの里管理運営事業	H26貢献度上位
事務事業	真壁のひなまつり支援事業	H26貢献度上位、H27優先度上位
事務事業	筑波山地域ジオパーク推進協議会参画事業	H27優先度上位

施策番号	503	施策名	観光の振興	主管課	商工観光課
------	-----	-----	-------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・観光客入り込み客数は、24年度333,600人、25年度367,100人で、26年度339,600人で、24年度からは6,000人増となっているが、前年度からは、27,500人減少している。要因は、観光客入り込み客数調査において、雨引観音の観光客数の増減によるものである。</p> <p>・岩瀬地区の上野沼やすらぎの里キャンプ場利用者数は平成18年度の14,606人から毎年減少の一途をたどっている。平成23年度の6,716人と震災による半減は別として、平成24年度11,573人、平成25年度11,605人と、ここ数年は横ばいだったが、平成26年度は14,761人と前年度から3,156人増となり、平成18年度以来久しぶりに14,000人台に到達した。</p> <p>・大和地区の雨引観音は205年度181,169人から26年度164,604と16,565人の減。調査日の天候により多少左右されることが原因で前年度より減となった。</p> <p>・真壁地区街並み観光は、1,513人が真壁街並み案内ボランティアを利用した。</p> <p>・真壁のひなまつりについては昨年の8万人から2万人上回る約10万人が訪れた。臨時バスはTXつくば駅からは11日間で1,247人(昨年17日間で1,188人から59人増)。JR水戸線岩瀬駅からは11日間で686人(昨年12日間で685人から1人増)の利用があった。今回は天候にも恵まれ、バスの停留所が高上町駐車場となり、会場が近くなったことで利用者増につながった。</p> <p>・北関東自動車道を利用して北北、北関東、首都圏から訪れる観光客が増加している。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①観光客入り込み客数の26年度目標値は405,000人に対し339,600人で65,400人下回った。</p> <p>②やすらぎの里利用者数の26年度目標値は12,000人に対し、14,761人と2,761人増となり目標水準を上回った。なお、「観光入込客統計に関する共通基準(平成21年国土交通省観光庁策定)」の導入に伴い、平成23年度調査から暦年での集計となっており、平成22年度までの年度集計との単純比較はできないため、平成22年度の集計結果について月別に集計している観光地点を再集計した結果と比較すると、平成22年比0.8%減となった。</p> <p>③近隣市町村と比較では、桜川市が前年度入込客数367,100人から339,600人と27,500人の減。筑西市313,800人から369,400人と55,600人増、結城市97,400人から112,200人と14,800人増、下妻市1,189,000人から1,033,500人と155,500人の減、つくば市3,316,100人から3,419,400と103,300人の増、石岡市1,086,000人から1,331,400人で245,400人の増となっている。桜川市の入込客数減の要因としては、真壁のひなまつりでは例年並みの10万人が訪れたものの、雨引観音来訪者数の減によるものと思われる。筑西市は下館祇園祭の影響で増、結城市の増はアド街ック天国放映の影響、下妻市は砂沼さんビーチの集客の影響で減、つくば市は人口規模が大きく違うので比較にならないが参考のため記載した。石岡市が飛躍的に伸びたのは「ふるさつ石岡」5万部無償配布や果樹園へとフラワーパークへの影響が大きいと思われる。</p> <p>※平成26年度 茨城の観光レクリエーション現況から記入。(6月下旬発表)</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・平成26年度における茨城県の入込客数(延べ人数)は5,075万人(前年比5.6%増 平成25年度は4,806万人)となった。国営ひたち海浜公園が過去最高の入込客数を記録したことや、鹿島神宮に行われた12年に一度の大祭である御船祭が好評だったこと、その他のイベントにおいても全体的に入込客数が伸びたことなどから平成25年度の入込客数を上回った。なお、「観光入込客統計に関する共通基準(平成21年国土交通省観光庁策定)」の導入に伴い、平成23年度調査から暦年での集計となっており、平成22年度までの年度集計との単純比較はできないため、平成22年度の集計結果について月別に集計している観光地点を再集計した結果と比較すると、平成22年比0.8%減となった。</p> <p>・近隣市町村と比較では、桜川市が前年度入込客数367,100人から339,600人と27,500人の減。筑西市313,800人から369,400人と55,600人増、結城市97,400人から112,200人と14,800人増、下妻市1,189,000人から1,033,500人と155,500人の減、つくば市3,316,100人から3,419,400と103,300人の増、石岡市1,086,000人から1,331,400人で245,400人の増となっている。桜川市の入込客数減の要因としては、真壁のひなまつりでは例年並みの10万人が訪れたものの、雨引観音来訪者数の減によるものと思われる。筑西市は下館祇園祭の影響で増、結城市の増はアド街ック天国放映の影響、下妻市は砂沼さんビーチの集客の影響で減、つくば市は人口規模が大きく違うので比較にならないが参考のため記載した。石岡市が飛躍的に伸びたのは「ふるさつ石岡」5万部無償配布や果樹園へとフラワーパークへの影響が大きいと思われる。</p> <p>※平成26年度 茨城の観光レクリエーション現況から記入。(6月下旬発表)</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか、その他の特徴は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
特徴・背景	<p>・住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、平均よりどちらも低く、要注意項目に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・26年度において重点的に取り組んだ対象地区は、市外、県外(1都5県福島)で、「観光情報を発信する」ことを重点意図として取り組んだ。</p> <p>貢献度評価の結果、貢献した事務事業は、「観光協会運営支援事業」「上野沼やすらぎの里管理運営事業」「真壁のひなまつり支援事業」「観光パンフレット作成事業」が施策の成果向上に貢献した事業といえる。</p> <p>・「観光協会運営支援事業」は、市補助金6,000,000円を受け、岩瀬地区ではさくら祭り、納涼大会、岩瀬駅前祇園祭、ヤマザクラ見学者の受け入れ、大和地区では大和流騎馬競技大会、真壁地区では真壁のひなまつり、真壁祇園祭、かつたて祭りなどの支援を行いました。また平成26年7月1日にオープンしたホームページを活用し、観光PRや情報発信を進め、観光、物産両面の強化を図るとともに会員増強に力を入れました。</p> <p>・「上野沼やすらぎの里管理運営事業」は、年間1,4761人のお客様がケビン、オートキャンプ場、バーベキューサイトを利用し、余暇を楽しみました。また施設を利用したイベントとして11月22日にクラフト市、ミニコンサート、軽食などを中心とした第2回目の『森こみい』を開催し約5,000人が来場しました。</p> <p>・「真壁のひなまつり支援事業」は、真壁のひなまつり実行委員会に対しての支援として、茨城県観光物産課、茨城県広報公聴課、茨城県観光物産協会、首都圏新都市鉄道(TX)、閑鉄バスと連携し、臨時バスの運行、ポスター、チラシ、ホームページによる広域的なPR活動、メディアへの露出を実施しました。また会場案内、駐車場整理等でも工観光課のほか市職員有志の協力を頂きました。</p> <p>・「観光パンフレット作成事業」は、2種類のパンフレットを追加作成し、既存のパンフレットも含め市内の観光拠点、施設へ設置しました。また近隣自治体と連携し、キャンペーン等でも配布しました。</p> <p>平成26年度追加作成・・・桜グルマップ30,000部 筑波山ジオパークパンフレット10,000部</p> <p>【その他の事務事業】では、県観光物産協会参画事業は、観光キャンペーンにおいてパンフレットを配布し、ホームページ「観光いばらき」において市内観光スポットの情報を発信した。漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会参画事業は、平成27年1月30日に、いいね いばらき 発見ナビに「真壁のひなまつり」が、また平成27年2月13日に磯山さやかの句刊いばらきに「真壁のひなまつり」が放映された。</p> <p>県自然歩道利用促進協議会参画事業は、平成26年10月26日(日)に第33回IBARAKIウォークフェスティバルを実施し207名が参加した。</p> <p>筑波山地域ジオパーク推進協議会参画事業は、平成26年8月に認定が見送となり、指摘事項の修正と実施計画に基づく事業を行った。主な内容としては基本構想の構築、ジオストーリー及びジオサイトの検討、各市巡検、各市ジオツアー等を実施した。</p>
-------------	--

8. 今後の課題と方針

区分	今後の課題	今後の方針
施策全体	<p>・北関東道やつくばエクスプレス、茨城空港等新たな交通インフラを利用した観光客の増加に寄与するため、既存周辺施設を利用した観光PRを検討していく必要がある。</p> <p>・新たな観光資源に関わる市民団体との連携・支援の検討を行っていく必要がある。</p> <p>・観光資源への交通手段の確保についての検討が必要である。</p> <p>・観光客数は増加傾向にあるものの、地元への経済効果についてはまだ不十分であるため、今後は観光振興の取り組みによって、経済効果をもたらす方策の検討が重要である。</p>	<p>・水郷筑波国定公園・笠間県立自然公園の指定を受けている豊かな自然環境、国の天然記念物・名勝指定の「桜川のサクラ」や里山のヤマザクラ。約100軒の登録文化財を有する真壁の町並み、多くの観光客が訪れる雨引山等の歴史的・文化的遺産を活かし、観光が当市へ経済効果をもたらすよう育成・強化を図ります。</p> <p>・既存の観光拠点の整備拡充を図るとともに、イベントの見直しや再構築、観光宣伝の強化により、人と人とのふれあいを大切にした滞在型の観光地の形成を図ります。</p> <p>・つくばりんりんロードや北関東自動車道の活用、さらには筑波山周辺地域自治体との連携により広域観光の開発に取り組みます。</p> <p>・地域振興策の一つとしてジオパーク認定をめざします。</p>
基本事業	①観光PRの強化・充実	市と観光協会のホームページやフェイスブック、観光パンフレットによる情報発信をさらに進め、観光・物産両面を強化していくとともに、マスメディアや観光キャンペーンを積極的に活用し、観光PRの充実を図ります。
	②観光資源の充実・開発	既存の観光資源の受入体制の整備と相互の連携をさらにすすめ、新たなイベントの発掘や観光資源の充実に努めます。また、実際に地域活性化事業に取り組んでいるイベント主催団体、市民団体との連携を密にし、積極的に支援していきます。また茨城県と連携しレンタサイクル事業を推進します。
	③近隣自治体との連携	筑波山地域ジオパーク推進協議会で計画している事業(講演会、パネル展、パンフレット配布、ホームページによるジオサイト紹介等)を推進していく。近隣自治体が入っている協議会を活用し、イベント会場や観光案内所での合同PR活動を推進し、市のイメージアップへとつなげます。また観光資源のネットワーク化を進め、通過型から滞在型に移行できるよう努めます。